

171-0014東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F

AA

日本ニューズレター No.120

ビッグブック・スタディガイド（ビッグブックの解説書など）の是非の見解

BOX 459（ニューヨークGSO発行のニューズレター）より

アメリカでは、グループ単位でビッグブックの12ステップに関する部分の文章を引用し更にそれに解説を加えた冊子類が幾種類か作成され、ミーティングなどで使用されているケースが結構あると聞いている。日本でもインターネットの普及に伴い、数年前からインターネットからダウンロードした英文の解説書に日本語訳が施されて数年前からいくつかのAAグループで使われているようだ。これに関して、「あれは、AAのプログラムではない」、「冊子はアメリカ・カナダ評議会承認の出版物ではないのでAAの中で使ったら問題があるのではないか」、「日本のAAはどう考えているのか」、「AAグループ名入りの冊子が、病院などでAAの出版物として利用されているが問題ないのか？」など、グループやメンバーから幾つかの問い合わせや疑問がJSOやセントラルオフィスへ寄せられている。

このようなスタディガイドの作成使用に対して、現在のところ日本AAの正式見解はない。日本の常任理事会や評議会で問題提起する必要性があるのではないかと感じていた矢先、昨年の年末号の「BOX-459」（ニューヨークGSOが隔月に発行している、アメリカ・カナダはもちろんのこと全世界のAAに向けてのニューズレター）でゼネラルサービス常任理事会（GSB）のビッグブックスタディガイドの見解が述べられ、また1997年にAAワールドサービス（WS）社がこの問題に対しての委員会を設置し、委員会メンバーが結論を出して見解文書の概説を提示している。その中で、ビッグブック、12のステップ、12の伝統、12の概念に解説を加えることで原理の本質が限定されたものになったりすることの弊害がAAの霊的な角度から種々提言されていて、AAの原理の幅広い捉え方の自由さと寛容さを読み取ることができた。そして、AAワールドサービス社がAA文献のスタディガイドや解説書を出版したり、また承認したりしない理由も述べられている。

アメリカ・カナダのGSBやWS社の見解は、内容的に日本のAAでも適用できる見解でもあるとの判断から、各グループ、各委員会、各サービスオフィスなどで分かち合いしていただきたいとの願いで、このたび「AA日本ニューズレター」を通して、下記に「BOX-459」の記事を紹介することにした。

出版担当常任理事 新村

Box 459 Vol. 51, No. 6

HOLIDAY ISSUE 2005 p7-8

ビッグブックスタディガイド：

見解提示文書（position paper）の概説

しらふのアルコールは、何かをしなさいとか、何かを言いなさい、あるいは何かを考えなさいと言われることを拒否することにかけては悪名が高い。ステップは「提案」であり、経験豊富なスポンサーは、ニューカマーに、厳しいことや早すぎることを提案しないだけの十分な賢さを持ち合わせているものである。しかし、矛盾しているようであるが、驚くほど数多くのメンバーたちが、AAの文献について掘り下げて取り組もうとし始めるときに、ガイドブックを探して、それに頼ろうとする。そのような、いろんなガイドブックはAA以外のところから出版されていて、利用することが可能である。ゼネラルサービス常任理事会（GSB）は、これらの出版物に対して承認もしなければ、反対もしないのであるが、私たちは、伝統的に、私たち自身で解説書の類のものを作成することは拒否していて、代わりに、私たちの文献を、そのままに提示するというやり方をしている。

1977年に、AA以外のところから、また一部のAAメンバーから、スタディガイドの中にビッグブックや他の資料の一

部を転載したいとの要望が数多く出され、その数も増えてきたという状況に直面し、AAワールド・サービス社の理事たちは、この事態を重く見て、この問題について取り組む委員会を選任した。委員会のメンバーたちは、全会一致で、外部のところが私たちの文献の抜粋をスタディガイドの中で用いることについては許可を与えることはせず、AAそのものからもスタディガイドは出版するべきでないという提言を行った。

結論として出された文書「ビッグブックスタディガイドおよび他のAAプログラムの解説書について：見解提示文書（ポジションペーパー）」は、委員会の構成メンバーとなった何人かの理事たちの考えを記載するところから始まっている。例えば、ある理事は次のように書いている。

「AAの美しさ、不思議さの一部は、実に様々な異なる背景の中で人生を歩んできた人たちが、ビッグブック、ステップ、伝統、概念というものから、それぞれの個人の視点で取り組んだ結果として、果実を得ていることにある。紙に書かれたガイドラインを位置づけるということは「これがその方法であり、これこそが唯一の方法である」と示しているように思えてしまう。」

「私たちの文献や、私たちのプログラム、ステップ、グループ、そして、ミーティングのすべてがデザインされ、効果的に行えるようにされている、その主眼としているものは、

AAという場の中で、自分で判断し、自分で行動することを手助けすることにある。私は、私たちの文献、特に本については、そのものがスタディガイドであると受け止めている。すべてがそこにある・・私はいつも、書かれている言葉自体が、生きていて、変化し、成長しているものであるかのように感じる。実際にはそうではなくて、言葉はそのまま変わらずにあるものであり、私こそが変化し、成長するものであるということは分かっている。しかし、このことは、言葉がそのままの言葉として、仕分けされたり、解説されたりすることなく、ただ、あるところに言葉として存在し続けているということから、起こる現象である。私たちのスローガンの一つは、‘簡単（シンプル）にしよう’である。私は、私たちの本は、ただそのままにあるというシンプルなものであり、また、生きて、成長していくのに十分に複雑なものであると信じている。」

「私は、プログラムは、スピリチュアル（霊的）なプログラムであると理解している。私にとっては、そういうものであったし、今でもそうである。しかし、解釈するためのガイドがあってもなくても、研究することで、私にこのようなものがもたらされるとは、信じられない。言葉は、その一部に過ぎず、ミーティングで他のメンバーと行うやりとりや、顔を突き合わせて行うディスカッションによって、私は行動を起こすことができたのである。自分がすべきことを知識として知るとは、初めの身震いするような行動に着手することへの信仰を持つことの方に比べれば、問題に取り組むのあまり重要ではなかった。書かれた文字ではなく、生の証言に触れることが、最終的に行動を起す決心をもたらし信仰の扉を開けることになる。すでにあるものよりも、もっとよい整えられたものがあるだろうということを私たちが信じていたならば、と考えると、私はひどく困惑してしまう。私は、それを欲しいと願っているアルコールクに対して『うまくいっている』と人々から評価されている微妙なバランスにみだりに手を加えることは、とても愚かなことだと思う。」

別の理事は次のように書いている。

「私の回復についての知識は、ひとりの酔っ払いがもうひとりの酔っ払いと分かち合いをする経験をしていくフェロシップの中で得られてきたものであり、教育を基盤としたものや教室的な雰囲気の中で得られたものではなかった。私は、私たちはAAの中で心の言葉でコミュニケーションを行っていると信じていて、このような形のコミュニケーションは、スタディガイドを用いたやり方では非常に難しいことのように思う。」

「最後に、伝統2は、私たちの最高の権威はただひとつであり、私たちのグループの良心の中に自分を現される愛の神であることを示している。私が思うのは、もし私たちがスタディガイドを通じてのビッグブックの解釈を認めることになったら、私たちは自分たちの最高の権威の土台を壊すことにもなるのではないかということである。」

最終の方針文書には次のように書かれている。

「AAワールドサービス社理事会は、外部の出版社や他の団体が、ガイドや解説または説明用テキストなどに用いることを目的としてAAの出版物を引用することに許可を与えるべきではないと強く感じている。もし、そのような解釈やスタディガイドが準備されるとしたら、AAワールドサービス社から出版されるべきである。」

「しかし、理事会は、AAは、自ら判断し、自ら動機付けし、自ら行動するプログラムであり、スタディガイドや、コース、教室または解説を利用することは一般的に適当でない

と認識している。プログラムは、学問的なものというより、スピリチュアル（霊的）なものである。AAには権威者は存在せず、‘先生’を自称するものも欠点を有している。したがって、個々のメンバーや候補生が、彼／彼女らのそれぞれの見方で文献を解釈することが望ましい。このような理由によって、理事会は、AAの文献のスタディガイドや解説書の出版を今回は計画しない。」

確かに、アルコールクス・アノニマスとしては解説資料の製作に参加することは拒否したのだが、AAメンバーが出版したり、あるいはそれを活用することについては反対することはしていない。多くのメンバーが、GSOに連絡をして、スタディガイドを使用しても良いだろうかと尋ねてくる。1985年に、当時のGSOのゼネラル・マネージャーだったボブ・Pによって書かれた手紙は、このような問合せへの代表的な回答となっている。

「あなたのグループでこの資料を使うことが12の伝統に書かれている言葉やそこに示されている精神（スピリット）に反しているものかどうかは分かりません。そして、『あなたのグループが』印刷されたガイドや資料を、本を学ぶための助けとして活用したいと考えたとしても、理事会もこのオフィスもその資料について承認することもしませんが、反対することもしないのです。」ボブは、AAワールドサービス理事会の見解について説明を続けたが、背景として1977年の見解提示文書（position paper）を同封したのであった。

JSOの棚卸について

JSO担当常任理事 森田

以前このニューズレター紙面でも財務担当理事からお知らせしていましたように、JSO業務についての棚卸を定期的に行っています。

今年になってからは、六月にJSO職員全員と担当理事を交えての棚卸を行い、七月の常任理事会で口頭報告を行いました。また、八月になってからはJSO職員のためのクロードで棚卸を行い、九月の半ばにJSO職員と担当理事を交えての棚卸を行いました。

棚卸は各職員のJSOでの業務の点検、そして現状でのその運営方法、いま個々の職員が感じている問題点、さらに業務改善の提案や生産性の向上についての項目整理など多岐にわたっています。

内容は十月の常任理事会で報告されました。そしてJSOの業務をグループの皆さまに理解していただくため、業務内容と現状をまとめながら、各職員の担当ごとにJSOからの月例情報に同封したり、このニューズレター紙面に掲載していくことを考えています。

各グループの皆さまのサービス活動に細かな対応が出来るよう、これからもJSOは業務改善を行ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

★カレンダー手帳ができました！

毎年ご好評をいただいているBOXカレンダー手帳2007年版を一回りサイズを小さく使いやすくして発売しております。落ち着いたブルーの表紙、メモ帳を8ページ増量し情報の備忘録として重宝できると思います。プレゼントにも最適です。お求めはJSO、あるいはお近くのセントラルオフィスへご注文ください。

お知らせ

『全国矯正・更生保護施設 メッセージフォーラム』

日時：12月16日～17日

会場：中野サンプラザ
東京都中野区中野4-1-1

最寄り駅：JR中野駅北口下車：目の前

主催：

AA日本常任理事会 広報・病院・施設委員会
AA関東甲信越地域
全国矯正・更生保護施設フォーラム実行委員会

参加費：無料

宿泊：11,100円（45名先着順）

申込及び詳細：J S O

03-3590-5377

先進国と言われている国のほとんどが、その国でAAが始まったところに「AAの回復のプログラム」が矯正施設内でも活用され、その結果、多くのアルコール依存症の人が社会の中で飲まない幸福な生き方をいただいています。

1994年5月29日ニュージーランドのWSM評議員など5名が訪日し、東京の月島でワークショップが開催されました。ニュージーランドは日本と国の大きさや人口など似通ったところがあります。しかし、AAに対する社会の認知度は日本よりはるかに優れていることが話の内容からうかがい知れました。AAの広報関係においては、年に一度地域社会や国の協力をいただき「広報月間」を設け、国全体が一緒になって活動しているということでした。それと矯正施設へのAA活動は驚嘆すべきものがありました。なんと100%、矯正施設にAAグループがあるということでした。そしてその話をする時に見せたニュージーランドの仲間たちの愛に満ちた笑顔を抑えることは出来ません。

日本からも法務省保護局更生保護委員会の方（ノン・アルコール、現在K市保護観察所所長）がゲストスピーカーとして、次のことを話されていました。

「日本でも今までに何度か矯正施設、更生保護会（当時は更生保護会、現在は更生保護施設）にAAのメンバーがメッセージを運んでいたことがある。しかし単発的なもので継続してこなかった。これからはチームを作って取りかかった方がよいと思う」。

この方には現在でも私たちAAメンバーは大きな力と勇気をいただいています。

近頃、矯正施設、更生保護施設からの問い合わせが各地で続いています。もちろんAAへの問い合わせですからメッセージなどのお願いごとがほとんどです。本年より受刑者の処

遇が旧来の監獄法から受刑者処遇法という法律に変わり、受刑者の更生に向けての処遇が著しく緩和されたというのがその大きな理由です。

また、運営の一部を民間に委託するという収容施設の建設が始まり、近い将来実質的なものとなってきます。アルコール依存症に係わることでAAにも協力をお願いがあり、伝統に則った協力の仕方が大切だと考えています。

メッセージ先が増えるということは、私たちアルコール依存症の人が回復し「幸福な生き方」をするためにとても大切なことです。このような問い合わせは大いに喜ぶことであるはずなのですが、必ずしもそうはいかないようです。グループにおいてはメッセージに行くという仲間が少なく困っているという話も聞きます。特に矯正施設、更生保護施設へのメッセージはグループの中でも一般化しておらず、大いに躊躇するというのが正直なところだと思います。これらのことなども踏まえて、常任理事会としてはAA全体にも影響を及ぼす矯正施設・更生保護施設への活動に重大な関心を持たざるを得ません。今年の評議会で全国の仲間たちに「矯正施設」のメッセージに親しんでもらいたくフォーラムの開催を提案させていただきました。そして各地域に開催立候補の呼びかけをしましたが、立候補の届けがなく最終的に関東甲信越地域・矯正施設委員会で受け持っていただけということになりました。このフォーラムで多くアルコール依存症の仲間、またノン・アルコールの方々が自分たちの経験を惜しげもなく分かち合えるように実行委員会は全力を注いでいます。そしてこの分かち合いが今後各地域において実りあるものになると、常任理事会は信じています。

AA日本常任理事会広報・病院施設担当理事 原田

地域の分かち合い

AAに通うようになって、「サービス」という言葉に気付いたのは、どうやらAAミーティングに行き始めてから2～3ヶ月ぐらい経つてのことだったように思います。私は、いよいよ酒のことがどうにもならなくなり、もはや他の病院では同じことを繰り返すだけだし、逃げ込みたい、楽になりたい、もうどうでもいいや、などの捨て鉢な気持ちなどが絡んだような状態で、精神病院に入院しました。ですから、自分のためにAAに行くこと以外、思いつきもしませんでしたし、もちろん今も、ほとんどの人が初めてAAに繋がろうとするとき、サービスをやることなど想像もしていないのでは・・・、と思っています。

そういう私が、己の気持ちを込めて、構想し工夫し、想定していくようなサービスの機会を得たのは、ソーバーがおおよそ半年も過ぎようとしていた頃からです。

私の場合、それらの気持ちの元は、AA書籍にあるような、アメリカのAAの歴史や勢いと、自分のまわりのAAの実情とのギャップが、あまりにも大きいので何とか書物のように華々しくならないものだろうかというようなことからでした。関東ではAAのグループがけっこうたくさんあって活動していることもおおよそ知りましたし、我が都市でも、もっとたくさんの仲間がいてもいいのでは・・・という、AAの広がりや夢を描いていたことでした。当時、偶然幸いにも、まわりにはAAの書籍を読みあさり（失礼な表現かな）同じようなソーバー開始の仲間が数人いて、なおかつAAにやけに惚れ込んでいて、日夜、AA論議と同時に競争心を煽られての

ことでした。今から思えば大いに病気の症状らしく活動を始めたわけですが。当然のごとく、まだよくわかっていない伝統によるけん制や批判もまん延し、お互いに、競争、対立心旺盛でわれ先合戦であったことがつくづく思い出されます。

ともかく、私のスタート点とはそんな感じでした。そういう中で、AAのサービスとはどのようなものか、ということを経験的に学んでいった気もしています。具体的には、新グループの最初のメンバーになり、AAグループのしもべを務め始めたわけですが、私の独善というものがいかに通用しないか、また私の求めていた賞賛の声などは、いかにいただけないものなのか・・・、やっている割には、お褒めの言葉も感謝の言葉も帰ってこない・・・です。ですから、黙ってやっていることは、ある種の被害者の様な心地でした。私の心や人生への向き合いや動機が高慢だったため、最初の数ヶ月は後悔と逃避願望にけっこう苛まれましたが、完全に間違っただけをやるような感じではなく、欲求やわがままを減らせば、どうにか耐えられる様な気もしていました。そうやってしばらくすると、だんだんと気心の知れる仲間が増えていき、いろんな役割も分かち合えるようになり、グループの存続はずいぶん安泰となっていました。今も、AAの書物や理想と、実体を量りにかければ雲泥の差ではありますが、グループもあれから8年が過ぎ、たぶんAAの魅力に触れた仲間は相当数になるものと信じています。

よいサービスとは、実際に仲間に役立たないとならない・・・、と思いつつ、そのために思考したり、工夫したり、行動したり、修正したり、仲間とのコミュニケーションをよくしたり、感情の揺れ動きの中でのスローダウンや、結論、結果への辛抱・・・、そして、私などはいつも合理性へ働く思考回路を、むしろ、思いやりや愛の方向へ軌道修正するなど・・・、こんなすがすがしい、どこにもないような真の道德心や体験を・・・、私は求め、感じ、知ることが出来るなんて・・・と、時折、心にさわやかなそよ風さえ吹きます。

地区や地域のゼネラルサービスのほかに、セントラルオフィス委員会の役割も経験させて頂きました。ことに、オフィス委員の時は役割の輪番はありましたが、比較的長く関わらせていただきました。そこでは、ローカル・サービスのあり方や、何とか・・・グループとセントラルオフィスの密接な関係や、感覚の進化と浸透を・・・と願っていました。しかしながら、セントラルオフィスの、本来的な位置づけといいますか・・・、意味合いとかに比べて、現状や実体のギャップも感じています。グループとセントラルオフィスとが、もっともっと近づくのは、きっとこれからだろうな、と思っています。

日本中のAAメンバーのいったいどのぐらいの人が、JSOとセントラルオフィスのあり方や、位置づけとかその存在する意味合いを、きちんと感じているだろうか、とか・・・、自分自身もまだまだよくわかりませんが、もっともっとセントラルオフィスを、各グループが直接的、密接的に支え、直接的に利用し、少しでも近づいていけるように・・・、そういう中で、論議が交わされ、オフィス委員会がよく機能するようにと願う次第です。

あと少しだけ・・・。AAの伝統2にもあるように、私たちは命令や支配では動かされない・・・、じゃあどうやってAAにその奉仕活動の成果がもたらされているのか・・・？。私も、前に何となく、何故自分はサービス活動をするのだろうか・・・？、

愛の・・・？、或いは、思いやりの実践だろうか・・・？、と考えてみましたが、少なくとも私はその域には達していないと思いました。私にあるのは、幾ばくかの「自発」そして、「好奇心」「共感」だな、と思いました。それらを支える「熱意」なり「情熱」なりもまたあって、そのためには、「十分に伝えられた情報」というのがとてもたいせつだとも思いました。私たちが生きる活気を得ているその息吹に必要な、AAの情報は、AAの中にしっかりと漂っていないといけないな、とつくづく思っている次第です。というわけで、もう予定の字数がいっぱいみたいなので、これで終わります。皆さんよろしく。

AA福岡中央グループ SHOW

第2回

モンゴルナショナルコンベンション

2006年8月13日～15日

第2回モンゴルナショナルコンベンションはモンゴル国立公園内にあるゴルキー・テレルジ(Gorkhi-Terelj)のキャンプで行われ、105名の仲間の参加がありました。ニューヨークGSOから所長のグレッグ・M氏、国際デスクのダグ・R氏、日本からWSM評議員と12名、ロシアから*シベリア地域AOSM評議員のセルゲイ氏ら9名、そして韓国英語ミーティングから3名の仲間の参加があったことは神からの偉大な贈り物でした。

(訳注* ロシア西部はヨーロッパの地域帯サービスミーティングに評議員を派遣している。)

3日間にわたって行われたコンベンションのテーマは「回復」で、12のステップとスポンサーシップについての経験が分かち合われました。また女性、ヤング、ニューカマーのミーティングも行われ、他の国から来た同じ仲間と経験を分かち合うことによってお互いから学ぶことができました。それはモンゴルのAAメンバーがより健康な生き方をしていきたいという希望を与えそしてそれをかなえていくものとなるでしょう。

モンゴルでAAが始まって8年が経ちました。AAの原理、価値観と12のステップによる回復をより深く学ぶことのできた貴重な機会でありましたし、お互いの経験を分かち合うことは神からの寛大なる贈りものでありました。

2年後、モンゴルAAは10周年を祝います。私たちは世界各地からの仲間を歓迎したいと思っています。皆様もモンゴルにいらして、経験と回復の実践を私たちと分かち合ってください。ありがとうございました。

デュメ モンゴルGSO

(AOSM Newsletter 9月号より転載)

AA日本ニューズレターNo. 120

編集・発行：NPO法人 AA日本ゼネラルサービス（JSO）〒171-0014東京都豊島区池袋4-17-10土屋ビル4F

TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419 ホームページ：<http://www.aa-japan.org>